

イマドキ男子を タフに育てる本

著者：岩室紳也



四六判・188頁
1,470円(税込み)
日本評論社

◎評者／逸村弘美（ライター）

少子化問題で常々叫びたかったことがある。「出生率が低いのは、女性が仕事を一生やりたがっているからだ」という方向に国のエライ人たちは考えているようだ、実際のところ「私は一生一人でバリバリ働きたいのよ!」と言っている女性は多くないように思う。むしろ、まわりの女友達を見ると「早く結婚したい」

れしかないのだと、一冊読み終わるころにはしみじみとする。それには、親、仲間、地域による傾聴に重点を置いた男子を支える環境が欠かせない。極めれば、ステ

「子どもを産みたい」と毎日念仏のように唱えている。そして、その後に続くお決まりの言葉が、「でもいい男性がいなのよね」。少子化問題のかなりの部分を占める原因は、コレではないかと思う。一流大学を出て一流企業に入社しても、すぐに辞めてしまったり、心の病で引きこもってしまったたり、彼女をつくるよりネットの世界に夢中だったり、果てはセックスにも興味がない草食男子が急

キ男子づくりとは、真の意味での健康づくり、ヘルスプロモーションの実践だと記されている。健康とは単に疾病がないというだけではなく、自己肯定感にあふ

増中だ。自殺も増えているのは男性だけというデータもある。いったい何が起きているのだろう。原因は男子の育て方だろうと推測はできるが、どうしたらタフでステキな男子が育つようになるのか、そこところは皆目分らなかった。

しかし、その疑問に著者である泌尿器科医の岩室紳也氏が長年の臨床例を挙げながらスパッと答えてくれる。

「かわいい息子にこそ、いいプレッシャーやストレスを積極的に与えましょう。本当の『生きる力』は、自らの挫折・失敗や我慢を経験することでしか学べません」と。この本には、岩室氏が実際に若者と交流しながら培った「タフな男子の育て方」が満載されている。繰り返し繰り返しちよつとしたストレスと向き合わせ、愛とユーモアで包みながら褒めたりたきつけたりして自分で課題を乗り越えさせる——ステキ男子を育てるにはそ

れ、心身ともにいきいきと毎日過ごせること。

日本の明るい未来は、草食男子を健康に育てることにかかっている。